

お知らせ

今回はクラシックギターのコンサートです

A Little Bit Concert vol.3

主催：ヨコハマポートサイド街づくり協議会



来る1月29日(土曜日)、幸ヶ谷集会所で、昨年に続き、小さなコンサートを開催させていただきたいと思っています。

今回のゲストは山田岳さん。昨年来に行なわれ第9回現代音楽演奏コンクールにおいてギタリストとして初の優勝を果たされた方です。その他にも第41回日本クラシックギターコンクール優勝、イタリア・ガルニャーノ国際ギターコンクール最上位、ベルリン国際ギターコンクール第3位入賞など受賞歴多数。そんな山田さんの演奏を、少人数で贅沢に楽しみたいと思っています。

会場：幸ヶ谷集会所2階 入場無料

日時：2011年1月29日(土曜) 午後2時～

問い合わせ/お席の予約 電話 **045 (243) 2013** → 午後5時まで
ヨコハマポートサイドA&Dコーディネーター事務局

または お名前/ご住所/連絡先電話番号(携帯可)を明記の上 ファックスで
ファックス 045 (243) 2014

2010年11月23日

かんきょう組写フォトコンテスト

本選が行なわれました

昨年の11月23日、コンカード横浜にて、かんきょう組写フォトコンテスト本選会が行なわれました。このフォトコンテストは、環境啓発をテーマに2枚から3枚の写真を組み合わせて表現するというもので、神奈川県内の高校生を対象に作品が公募されました。



各賞は、あらかじめ呼びかけに応じた35歳以上の大人と、会場を訪れた高校生が、それぞれの部門別(「大人の京方部門」「高校生の視点部門」)に投票をし決せられるというもので、専門家に限らず一般的な市民の視点から各賞を選んだという点でユニークな公募展でした。

主催イベント参加団体 東京都立大学60学生委員会/ama Boom Boom Project/学生NPO Face Find/横浜市資源リサイクル事業協同組合
主催：リサイクルデザインタウン発信フェスティバル実行委員会
web-site: <http://www.takematsu-design.com/kumiyu/index.html>

第一日はあいにくの雨天、それでも多くのお客様にいらしていただきました。地区内からもたくさんのお客様をお迎えすることができ、有難いとたどっています。第二日には雨も上がり、いつものような和やかなアート日になりましたが、出展者のみなさんには雨天ですいぶんご迷惑をかけたしまったようです。今年は目的の2つ目的の開催になりますので、もう少し実装に左右されない開催方法はないかなど、検討させていただきたいと思っています。おだやかな雰囲気をつわぬよう大切に開催を続けていきたいと思います。これからもよろしくお願ひします。

主催：アート緑日実行委員会/ヨコハマポートサイド街づくり協議会
web-site: <http://www.portside.ne.jp/cn004/pg0097.html>



2010年10月9日&10日

アート緑日19が開催されました

発行日：2011年1月15日

編集：ヨコハマポートサイドA&Dコーディネーター事務局 電話 045-243-2013

U M I K A Z E 2011



ヨコハマポートサイド

うみかぜ

ヨコハマポートサイド地区 ミニコミ紙

特集 宮川香山 眞葛ミュージアム オープン

開催報告

アート緑日/かんきょう組写フォトコンテスト

お知らせ

A Little Bit Concert vol.3

発行：ヨコハマポートサイド街づくり協議会

当時、欧州で“魔術師”と評された初代宮川香山
彼が創始したヨコハマ・オリジナルの陶磁器“真葛焼”

横浜から世界に旅立ち 世界で愛された やきもの

真葛焼（まくずやき）は、明治の初年、初代宮川香山によって創始された横浜オリジナルの陶磁器です。当時、日本の工芸品は、例えば、倉敷の錦兜葎（きんかんえん／花ござ）がそうだったように、海外、特にヨーロッパで高い評価を得ており、わが国の重要な輸出品でした。そうした経緯から、当時、わが国を代表する貿易港であった横浜港近くには、当時、さまざまなジャンルの名工たちが集まっていました。そして、横浜に新たな窯を開くため、京都から招かれたのが初代宮川香山でした。



初代香山は天保13（1842）年、京都真葛原（現在の京都東山／円山公園あたり）に、当時、名高い陶工であった宮川長造の四男として生まれ、幕府の御所献納品の作陶を依頼されるなど、すでに推新前から名工の域にあったといえます。

その初代香山が横浜にやってきたのは、明治3年、彼が29歳のときです。作陶には並々ならぬ苦勞があったようですが、早くも明治9年、フィラデルフィアで行なわれた万国博覧会、翌年の第1回内閣勲業博覧会に作品を出品し、それぞれに賞を受賞して地位を確立。特にフィラデルフィア以降、海外の博覧会にたびたび作品を出品し、その度に好評を得て受賞作を連発し、欧米の専門家たちを驚愕させ、国際的な地位を確立しています。

初代香山、初期の特長はいわゆる「高浮き掘り」にあると言われています。上の写真は宮川香山 真葛ミュージアムに所有されている「磁製蜂二鳥花瓶」、下の写真は「磁製蟹細工花瓶」ともに高浮き掘りの傑作です。この「高浮き掘り」は、マイセンの陶磁器に柿右衛門をはじめとする有田焼の影響が色濃く見えるのと同じように現在のロイヤル・コペンハーゲンの陶人形などに、大きな影響を与えたといわれています。

明治15年頃から、初代香山は、デコラティブな作品よりも、オーソドックスなやきものづくりへと作風を変えていきますが、中国陶磁器などから釉薬、釉法などを研究し、真葛焼を見事に陶器から磁器へと転換させていきます。

明治29（1896）年には、帝室技芸員（宮内大臣の任命による選択委員が、特に技術・人格の両面において優れた美術工芸家を推挙、帝国博物館総長が召集する会議で決定された）に選任され押しも押されぬ、わが国を代表する名工として歴史に記憶される存在になっていきます。



Makuzu ware Museum

宮川香山 真葛ミュージアム オープン

ヨコハマポルトサイド地区に

幻となった真葛焼

二代目として香山の名跡を継いだのは初代香山の兄の子で初代の養子となっていた半之助。彼も明治21年、家督を譲られるとシカゴ、パリ万博に参加するなどグローバルに活躍する一方、国内需要の掘り起こしなどにも尽力し、企業向けのノベルティ制作に乗り出すなど、精力的に活動していきます。しかしながら、関東大震災から昭和恐慌、太平洋戦争へと繋がる波乱の時代の中で、真葛焼は苦難の時代を迎え、昭和15年、半之助の長男葛之助が三代目香山を継ぎますが、昭和20（1945）年5月の横浜大空襲で、三代目香山とその家族、従業員までもが落命、工房も焼失、今日に至るまで正式には再興がかなわずにいます。



2010年10月10日

山本博士氏のコレクションから

（わが国有数の真葛焼コレクター／「世界に愛されたやきもの MAKUZU WARE 真葛焼 初代宮川香山作品集」の著者）

選りすぐりの名品を紹介する

“宮川香山 真葛ミュージアム”がオープンしました

土曜日、日曜日のみ開館（年末年始など休館日あり）／開館時間 午前10時～午後4時まで
※平日でも4名以上のご来店をご希望の場合は、4日前までのご予約ください。団体予約できる場合もございます。
入館料 大人500円／中・高校生200円／小学生以下無料
場 所 神奈川県栄町6-1 ヨコハマポルトサイド ロシア参事館1階-2
電 話 045（534）6853 管理・運営 株式会社三陽物産

真葛焼と土

真葛の一大拠点であった横浜も、作陶に適した土に恵まれていたわけではありません。

初代宮川香山も関東一円に「土」を求めて旅をしており、後の窯があった雨太田（庚台）と伊豆の土をブレンドして用いていますし、釉の材料になる木灰も、あちこちの木を切ってきては焼いたと伝えられています。

後年の記録には、尾州石や多治見の長石を取り寄せたともありますから「土」についてはずっと苦勞を重ね、また創意工夫を重ねていたようです。



泉原町から出土した陶片の展示（宮川香山真葛ミュージアム）